

「この人になら」と

期待される医師に

滋賀医科大学 整形外科学講座

いまい しんじ
今井 晋二 教授



滋賀医科大学 整形外科学講座
大津市瀬田月輪町
☎077-548-2111(代表)
<https://shiga-orthopaedics.com/>

滋賀に根差して40年余り。各サブスペシャルティを網羅し、先端医療を牽引する滋賀医科大学整形外科学講座。ヒューマニティーと知識・技量をあわせ持つ若手の育成にも力を注ぐ。

ど前からは、こちらでしっかり対応できるようにになりました。

先代は膝の軟骨再生のバイオニア。関節鏡を使った低侵襲手術を数多く手がけてこられました。また、私の専門である肩の分野で内視鏡手術が広がったのは2005年から2010年にかけてですが、われわれも着実に成果を上げてきた。こうした流れから、内視鏡を中心とした膝、肩、肘などの低侵襲手術が得意分野と言えます。

歴 代教授はリウマチ、脊椎、スポーツ、上肢、肩と、異なる分野が専門。教室には、長い年月をかけて蓄積された幅広い知識があります。他の分野も育つてきました。例えば、以前は他都市で治療することが多かった骨肉腫も、5年ほ

内視鏡手術は次世代に必須の技術。膝に続き、今後

は肩でも不可欠です。手術自体は一定のレベルに到達したと思われれますので、今は技術がブレイクスルーするというより、さらに横に広く普及する時代になるでしょう。

―肩の分野に関するトピックなど。

寝 たきりにつながる大腿骨や腰椎の骨折は

すぐ治療の対象になる一方、肩は積極的な治療がなされない傾向があります。しかし今、欧米では興味深いデータが示されています。「肩周りを骨折すると、平均寿命

が短くなる」というのです。年齢でデータを補正しても、説明しきれないらしい。腕が上がらない場合などに人工関節を入れることで寿命が延びるのではないかと、この研究もあります。今後、興味深いトピックになるでしょう。

―後進を育てるうえで、大切にしたいことは、大

整 形外科も専門化が進

んでいきます。実際肩の内視鏡手術を膝の先生が担当するのは難しいのが現状です。しかしそれだと専門外は人任せ、ということになりかねない。大事なのは全体の底上げです。どの専門医にも、他分野の7割方の知識と技量が備わるようにしたいと思っています。

例えばスポーツや内視鏡を専門とする医師が骨肉腫に対応する、これは大変に難しいことです。10代半ばの女子に多い骨肉腫は、血液内科や産婦人科、小児科での治療を経てようやく整形外科の人工関節手術へとつながる。そこをしっかりと理解し、各部門と連携でききるよう準備できているこ

とが肝心なのです。治療のチャンスが遅らせることがあつてはなりません。

さらに大事なことはメンタリティーだと思います。先端技術になればなるほど知識と技量に依存しがちですが、患者さんが一番欲しているのは、悲しみや苦しみに共感してもらいたい、ということ。この医師は理解してくれる、と思えば、つらい治療にもついていけると思うのです。

医局員に対しても同じ。彼らが窮地に立たされたとき、私自身がどれだけ理解し共感することができるとかを忘れてはならないと思っています。

―整形外科医を目指す若者に願うことを。

フ レイルやロコモティ

ブシンドローム、介護や在宅医療。今後、整形外科やリハビリテーションの領域が抱える役割はますます大きくなります。

理学療法士、作業療法士などのセラピストに対していい意味でリーダーシップを発揮し、協働することが非常に大事。でないとすぐにクオリティーが落ち、よい医療からはすぐに乖離してしまいます。専門知識とヒューマニティーを備え、安心して頼ってもらえる医師に育ってくれたら、こんなうれしいことはないですね。



1989年滋賀医科大学卒業、整形外科入局。日本学術振興会・特別研究員、滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション部助教授、同整形外科学講座准教授などを経て、2015年から現職。